

ごあいさつ

みなさん、今年もビルケ・コンサートに参加していただきありがとうございます。卒業の生徒さんたちも、無事今日この日を迎えられると本当におめでとうございます。

このコンサートは、卒業式として、クラスの生徒さん全員とOBの皆さんたちが、お祝いの気持ちをこめて、それぞれの演奏を披露しますが、それぞれの発表会とは別に、皆さんがバイオリンを楽しく演奏をしていただく場として大いに盛り上がっていただき、このような機会にクラシック音楽を身近に感じて、心の琴線にさらに触れていただくことが出来ればと思います。

昨今、クラシック音楽はテレビのドラマ音楽としても流れ、誰にでも親しめるものとして、その地位も少しずつ日本でポピュラーになってきた感じがします。

これらの中に流れているメロディーのひとつにしても、軽音楽のそれと比較して感情がより深いものであると思いますが、そのような音楽を幼少から見聞きして、また実際に演奏することが出来ることはほんとうに幸せなことであり、大いに子供の感性を育てていくものと思います。

そしてそのようにバイオリンを、音楽の一生の楽しみとして持ち続けることは、自らが楽しむだけでなく、大人になってからも交友の輪を広めると共に、豊かな趣味をもつ一人として日本の文化に向上にも貢献していく事でしょう。

現在、スズキ・メソッドは世界的に何万人もの会員がいますが、この日本においてもヨーロッパ音楽が開花していることは、この国の幼児期の教育が優れたものであり、そのような土壌において音楽教育も発展してきたことのように思います。

最近残念ながら家庭での子供に対する教育観もかわり、いつの間にか欧米以上の問題を抱える社会となってしまったことは周知の事実であると思います。

私たちのスズキ・メソッド理念はまさに、伝統的な日本の教育観に根ざしたものとして世界にも注目され、その哲学と共に多くの音楽を愛する人たちの共感を得て、いまや音楽教育運動として全世界に広まっています。しかし残念ながら私たちが今まで持っていた教育観、価値観が変化しつつある日本の社会は、このように世界がスズキ・メソッドに着眼し子供の教育から社会を変えてゆこうとしている流れとは異なり、まさにそれに逆行しているかのように思えます。

このような中で 今日コンサートから、あらためて演奏しているお子様たちの素晴らしさと、その育てられているご家庭で環境に意義を感じていただき、お子様のバイオリンが立派に弾けることから、将来の日本の社会を担っていく文化人への成長を、ぜひ皆さんで応援していただければと思います。

本日はお忙しいところお出でいただきありがとうございました。どうぞこれからも、皆様のお力添えにより、スズキの理念を通して私たちの教室が少しでも社会への貢献が出来ることを願って、ここにご挨拶と代えさせていただきます。

ビルケコンサートによせて 2007年4月29日

松井直樹